

焦点

イベント

産業まつり 27日開幕

「すべりむん 暮らしにキラリ 県産品」をテーマに第41回沖縄の産業まつりが、27(29日)に那覇市の奥武山公園、県立武道館で開かれる。出展者数は4年連続で500を超え、今年は538の個人・団体・企業が新商品や特産品を披露する。実行委員会会長の呉屋守章(守屋)氏に聞いた。

―産業まつりの意義は。

「1977年に第1回を開催し、昨年は40回の記念大会となった。工業製品ばかりでなく、食品加工も含んだ幅広い意味で沖縄のものづくりを県民にアピールできるお祭りとなっている。既存の製造業は製鉄やセメントなど建設に関連した製品開発が多かった

沖繩の産業まつり実行委会長 呉屋守章氏



―今年の見どころは。

「新エネルギー産業展を実施

新エネルギー展見どころ

が、観光が発展する中で沖縄 施する。資源が限られた島嶼の食材や文化と関連した食品 県にとつて重要なテーマである加工が充実してきた。産業まつり、エネルギーを上手に使うついで新しい商品を探しに県 スマートグリッドや省エネルギーのバイヤーが訪れ、それが ギーといった新技術を紹介すテレビで全国で紹介されて沖 縄を訪れた人が買い求める。 ができる光通信の体験もあり、 観光産業にもつながるいい循環。ぜひ家族で来場し、新し 環ができ、商談機能は沖縄大 い技術や県内企業が開発する トリムの廃ガラス再資源化プ 交易会に拡大発展している」 新商品を子どもたちに見せて ラント、究極の少量多品種生

あげてほしい。子どもたちが 産である佐喜眞義肢のCBP 楽しめ、学べる役割としてま レース、トマス技術研究所の 小型ごみ焼却炉、ワイズグロ ーバルビジョンの海水淡水化 装置などで、沖縄発の海外挑 戦が始まっている。いずれも 沖繩の島嶼環境の中から生ま れた面白い製品だ」

「全日空の国際貨物ハブ事 業は今後、那覇空港での航空 機整備事業(MRO)とも連 動していく。飛行機で運ぶよ

「戦後の廃虚の中から沖縄 を発展させていく夢を描き、 産業を立ち上げた創業者だ。 グローバル化の荒波が押し寄 せ、沖縄を取り巻く経済環境 は新しい時代を迎えていく が、終戦直後の困難の中で汗 を流し、知恵を出して今の沖 縄をつくった先輩たちの苦勞 を思えば、次世代のわれわれ は何も恐れることなく沖縄の 発展に挑戦していける」

(聞き手 与那嶺松一郎)

うな付加価値の高い製品をいかに増やしていくかが重要になる中で、高い技術を持った企業が中城湾港に誘致されており、輸出拡大が期待できている。沖縄科学技術大学院大学の存在もあり、再生医療といったかなり先端的な製造業が出てくる可能性もある」

―産業まつりの発展に尽力した古波津清昇氏、呉屋秀信氏の歴代工連会長が今年相次いで死去した。